

小児看護学実習

I. 目的 小児の特徴を理解し、小児とその家族に適切な看護ができる基礎的な知識・技術・態度を修得する。

II. 目標

1. 健康な乳幼児の成長・発達と生活の養護を理解する。
2. 小児特有の疾病および症状を理解し、それに伴う苦痛緩和への援助を行う。
3. 患児の成長・発達を理解し、日常生活の援助を学ぶ。
4. 疾病が小児とその家族に与える影響を理解する。
5. 小児の看護に必要な看護技術の基礎を知る。

実習目標および行動目標	実 習 内 容
<p>1. 健康な乳幼児の成長・発達と生活の養護を理解する。</p> <p>2. 小児特有の疾病および症状を理解し、それに伴う苦痛緩和への援助を行う。</p> <p>1) 患児の疾病の病態生理、検査、治療内容が述べられる。</p> <p>2) 患児の疾病に伴う苦痛を理解し、緩和するための援助を考えることができる。</p> <p>3. 疾病や入院が小児や家族に与える影響を理解する。</p> <p>1) 患児が疾病や入院によって受けた影響を述べられる。</p> <p>2) 家族が患児の疾病によって受けた影響を述べられる。</p> <p>3) 家族への援助の必要性がわかる。</p> <p>4) 患児への遊びの援助の重要性が理解でき</p>	<p>(1) 乳幼児の形態的成長、精神・運動機能の発達の理解</p> <p>(2) 子どもの年齢や基本的生活習慣の自立状況に合わせた援助</p> <p>(1) 治療方針・治療内容</p> <p>(2) 患児の病態生理と入院中の経過</p> <p>(3) 児の変化に合わせた症状の観察</p> <p>(1) 苦痛になっている症状や日常生活の制限の理解</p> <p>(2) 症状緩和への援助</p> <p>(3) 安静や日常生活の制限に対する援助</p> <p>(1) 患児の疾病や入院に対する理解度</p> <p>(2) 不安、恐怖などの訴え、もしくはそれに相当する行為の有無</p> <p>(3) 退行現象の有無</p> <p>(4) 治療の拒否</p> <p>(1) 家族の疾病に対する理解度</p> <p>(2) 不安、恐怖、自責などの心理状態</p> <p>(3) 家庭内役割の変更による心身の疲労</p> <p>(4) 同胞の健康状態や家族の生活の変化</p> <p>(1) 心身の疲労や不安の緩和</p> <p>(2) 教育的活動</p> <p>(1) 発達段階に応じた遊びの選択・実施</p>

<p>る。</p> <p>4. 小児の看護に必要な看護技術の基礎を知る。</p> <p>1) 患児とその家族とコミュニケーションがとれる。</p> <p>2) 小児の療養に適した環境を整えることができる。</p> <p>3) 基本的な小児の看護技術の目的・方法を理解し、見学・実施できる。</p> <p>4) 外来看護の役割が述べられる。</p> <p>5) 成長・発達を支えるために、様々な援助の場があることを理解できる。</p>	<p>(2) 患児にとっての遊びの重要性</p> <p>(1) 患児の発達段階に応じた接し方の工夫 (2) 養育者の気持ちを尊重した態度と対応 (3) 母子関係を尊重したコミュニケーション (4) 援助の際のわかりやすい説明の仕方</p> <p>(1) 年齢にあわせたベッドの選択とリネンの準備 (2) 発達段階を踏まえた、起こりやすい事故の理解と予防対策の実施 (3) 感染防止のための外来の構造・設備の理解と実施</p> <p>(1) 技術チェックリストに基づき見学・実施 (2) 年齢に応じた技術の工夫 (3) 小児科での検査・処置の援助 (4) 入院時、退院時の看護</p> <p>(1) 年齢に応じたコミュニケーションの工夫 (2) トリアージ、診察時の援助、検査・処置の援助 (3) 家族に対する支援（ケアに対する支援、療養生活に対する支援、育児支援と健康支援）</p> <p>(1) 成長・発達を支える様々な職種があることを知る (2) 病院以外で行われている援助の実際を見学する</p>
--	---

Ⅲ. 実習単位：2単位 90時間

Ⅳ. 履修学年・学期・実習施設

保育所実習（滝川市内保育所）		13時間
こども発達支援センター実習	：3年次 後期	3時間
（滝川市こども発達支援センター）		
病院実習（病棟実習：砂川市立病院、予防接種・小児科外来見学：滝川市立病院）		
	：3年次 後期	29時間
学内実習	：3年次 後期	45時間

Ⅴ. 実習方法

- ・ 保育所実習では、健康な乳幼児の成長発達と生活の養護を見学する。
- ・ 病院実習では患児もしくは事例患児の看護過程を展開する。またその期間に、診察や検査・処置の見学、患児や家族とのコミュニケーションをはかる。